

公表 事業所における自己評価総括表

事業所名	児童デイサービス さんこま(放課後等デイサービス)		
保護者評価実施期間	2025年2月3日		2025年3月17日
保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 22
従業者評価実施期間	2025年2月17日		2025/03/02
従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
事業者向け自己評価表作成日	2025年3月24日		

分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	馬との暮らしを通じた「役割意識」の育成 馬と暮らす日常の中で、子どもが「自分の役割」を実感できる支援環境が整っており、自己効力感の向上につながっている。	エサやり・水くみ・ボロ拾いなど、日常生活に必要な作業を子ども自身が担うことで、自然と他者に貢献する経験を積めるよう支援している。	活動を通じて得た「役に立った経験」を記録し、写真や音声で振り返る場面を意図的に設け、自己評価や達成感につなげていく。
2	自然を活かした感覚統合的支援 川・森・里山などの自然に恵まれた環境があり、五感を通じた感覚刺激を日常的に体験できる。	川遊び、森遊び、虫さがしなどの活動を通して、特定の感覚に偏らず、バランスよく身体感覚を育てることを意識している。	感覚の反応や変化に関する観察を定期的に共有・蓄積し、必要に応じて外部専門家とも連携した評価を行っていく。
3	子どもの自己決定と主体性 子どもが自分の「やりたい」を見つけて、自分で選ぶことができる柔軟な支援構造がある。	プログラムを固定せず、その日の子どもの状態や希望を確認しながら、活動内容を一緒に決めるようにしている。	選択肢の提示方法や、活動後の「振り返り」の方法を充実させ、自己決定が積み重なるしくみを育てていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている 課題の要因等	改善に向けて必要な取組や 工夫が必要な点等
1	支援の記録・評価の見える化が難しい 非言語的・感覚的な支援が中心のため、記録や支援評価を「言語化・形式化」することが難しい。	子どもの反応や感情の変化を職員間で口頭共有しており、支援は成立しているが、外部共有のための整備は不十分。	文字記録や音声記録写真記録をもとに、支援の「ねらい」や「変化」の可視化方法を模索し、子どもの変化、成長を把握する分析方法を検討する。
2	研修体制と学びの共有が不十分 スタッフの学びや気づきが個人の中に留まりやすく、職員間での系統的な研修や情報共有の場が少ない。	外部研修や見学の機会はあるが、日常業務に追われ、学びの時間やフィードバックが後回しになりがち。	短時間でも共有できる「学びの一言メモ」やミニ勉強会を導入し、業務と並行した継続的な学びの場をつくる。
3	支援内容の保護者理解にばらつきがある 自然体験や動物介在の支援が中心のため、一般的な療育と異なり、保護者の理解や期待に個人差がある。	体験後の様子や音声での共有を行っているが、「ねらいや意図」が伝わりにくいと感じられる場面もある。	支援の意図や背景を視覚化・言語化した資料を用意し、初回説明や定期面談で丁寧に共有していく。